

Nothing
About Us
Without
Us

SSKW親の会だより 増刊号

親の会会報 No.120

2021年9月発行



Inclusion Setagaya

世田谷区手をつなぐ親の会



地域で安心して
暮らすために
会長 渡部 伸

世田谷区の取り組みに感謝と今後への期待

■この原稿を書いている時点はまだ緊急事態宣言発出中で、相変わらず先が見えず、親の会の活動も例年通りとはいかない状況が続いています。とはいえ、新型コロナウイルスのワクチン接種については、障害者への優先接種、施設での集団接種など本人が安心して受けられるような選択肢の設定、接種会場までの交通費としてタクシー券の支給など、世田谷区ではさまざまな取り組みをしていただきました。たいへん感謝しております。

■区は今年度から3年間のせたがやノーマライゼーションプランを策定、障害のある人もない人もお互いの人格や個性を尊重して、住み慣れた地域で支えあい、自分らしい生活を安心して送れる社会の実現を目指す取り組みが定められました。そして、地域生活支援拠点等の整備と障害理解の促進及び差別解消などに関する条例について、具体的な検討に入りました。どの施策も、障害のある人が地域で安心して生活するために、大変重要な役割を持つもので、親の会としても今後の推移に注目していきたいと思っています。

さまざまな家族会を訪問して

■私たちは知的障害者の家族会ですが、その他にもさまざまな家族会があります。

■先日、遷延(せんえん)性意識障害者*の家族会に伺う機会があったのですが、複数の方がおっしゃっていたのが、本人はずっと支援を受けられるので、お金は必要ない。親の遺産は他のきょうだいにすべて渡したい、といったご希望でした。また、本人は意思表示できないので、親など親族の介護者がいなくなったときに成年後見人が本人の生活環境について病院等で確認してくれるのか、配慮してもらえるのか心配ではないという声も聞かれました。

■昨年の秋には、とある市の引きこもりの人の家族会に

お邪魔したのですが、障害者手帳を持っていない人も多く、本人支援の施策も限られていて、経済的にも厳しい。将来については不安しかないが、まずは今現在、本人が社会とつながっていくために何をすれば、どこに相談すればいいのかがわからない、という切実な意見もありました。

■さまざまな理由で生きづらさを抱えている人たちに、必要な施策はやはりさまざまだと感じた次第です。

障害理解のために親の会ができること

■知的障害に限らず、すべての人が地域で安心して生活していくために、支援体制を整えることや、多様な方がいるという理解を広めていくのはとても重要だと思います。

■今回、地域生活支援等の整備と、障害理解に関する条例が検討されるということは大きな意義があると考えています。それぞれのプランは、いくつかの協議会や委員会などで検討されることになっていて、当会からも自立支援協議会と障害者施策推進協議会に、役員が委員として参加しています。みんなが安心して暮らせる世田谷区になるために、微力ながら責任をもって取り組んでいきたいと思っています。



※遷延性意識障害とは、3か月以上にわたる①自力移動不能、②自力摂食不能、③糞便失禁状態、④意味のある発語不能、⑤簡単な従命以上の意思疎通不能、⑥追視あるいは認識不能の6項目を満たす状態にあるものをいう。慣習的に植物状態ともいう。(日本救急医学会HPより抜粋)

親の会会報 No.120 コンテンツ



- P2 : 世田谷区の障害福祉について
世田谷区障害福祉部長就任あいさつ
- P3 : (一社)つながりラボ世田谷
- P4 : コロナウイルス感染症 陽性判定を受けて
- P5 : 感染の疑いから感じた、かかりつけ医の大切さ
- P6 : コロナ禍で一年が過ぎて常任理事さんより一言
- P7~8 : 第65回総会オンライン講演会概要
- P8 : 2021年度賛助会員